石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第385号　平成27年11月1日発行

第62回 日本伝統工芸展 金沢展

朝日新聞社賞《乾漆線文合子》水口咲（石川）

特別陳列 石川の近代彫刻をたずねて

特集 生誕400年記念 四代藩主前田光高を偲ぶ

石川県の文化財 国宝・重文・県文

明治・大正期の工芸

優品選 絵画・彫刻・書

《日本武尊像》松井乗運
「石川の近代彫刻をたずねて」より

- 11月の企画展示室
- 企画展Topics
- 10月からの土曜講座
- 11月の行事予定
- ミュージアムレポート
- アラカルト ただいま展示中

1F企画展示室

第62回 日本伝統工芸展 金沢展

主催／石川県教育委員会、日本放送協会金沢放送局、朝日新聞社、北國新聞社、日本工芸会
後援／富山県教育委員会、福井県教育委員会

10月30日（金）～11月8日（日） 会期中無休 ※最終日(8日)は午後5時まで(入場は午後4時30分まで)

我が国は、四季の気候条件に恵まれ、多様な自然環境を形成しています。その中で、各地の風土に根ざした工芸品が生み出され、伝統技術を大切に継承し発展させてきました。本展は、この優れた伝統技術の保護と後継者の育成、ならびに伝統工芸に対する普及を目的として、毎年開催されるものです。

六十二回目となる本年は、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸（七宝・硝子・截金（きりかね）など）の七部門の入選作品六〇六点の中から、重要無形文化財保持者・受賞者等の作品と、北陸三県、及びその他の地域の入選作品を含め、三五八点を展示します。

今回の石川県の入選者は六十一人で、そのうち水口咲氏（漆芸）が朝日新聞社賞、多田幸史（ゆきふみ）氏（陶芸）が日本工芸会新人賞をそれぞれ受賞されました。

東京都知事賞《栃拭漆盛鉢》
細川毅（富山）

日本工芸会新人賞《幾何紋銀彩組鉢》
多田幸史（石川）

■展示作品解説

日時	11時～	13時30分～
10月31日（土）	《染織》坂口幸市	《木竹工》川北良造
11月1日（日）	《金工》中川衛	講演会
2日（月）	《金工》大澤光民	《陶芸》吉田美統
3日（火・祝）	《木竹工》細川毅	《陶芸》武腰潤
4日（水）	《漆芸》西勝廣	《人形》紺谷力
5日（木）		
6日（金）	《陶芸》中田一於	《漆芸》市島桜魚
7日（土）	《染織》二塚長生	《木竹工》中嶋武仁
8日（日）	《漆芸》林暁	石川県立美術館長 嶋崎丞

■講演会

演題／「金工と私の人生」
講師／山本晃氏　重要無形文化財「彫金」保持者
日時／11月1日（日）　午後1時30分～
会場／美術館ホール《聴講無料》

◆観覧料

	個人	団体（二十名以上）
一般	六〇〇円	五〇〇円
大学生	四〇〇円	三〇〇円
高校生以下	無料	無料

※当館友の会会員は、受付での会員証提示により団体料金に割引されます。

第4展示室

特別陳列

石川の近代彫刻をたずねて

10月29日（木）～12月6日（日） 会期中無休

本展は明治から今日に至る、石川の近代彫刻の歩みを館蔵品と借用優品でたどるもので、本展は特に加賀地区の作家を中心としています。

展示では、一、近代彫刻の始まり 二、銅像時代の始まり 三、展覧会と近代日本彫刻の模索 四、戦後美術・彫刻の展開 五、素材・フォルムと環境彫刻、以上の五部構成としました。構成一では、明治維新以降、積極的に受容を図った西洋美術・彫刻の普及・発展と伝統木彫の近代化について。二では、西洋彫刻の写実技法を元に本格化した鋳銅製の特定人物の肖像である銅像について。三では、第二次大戦前頃までの近代日本彫刻の模索・形成について展覧会との関わりについて眺めます。四では、戦後顕著となる国際化と美術の多角化の影響を受けた近代彫刻の展開。五では、同じく戦後発展著しい多彩な素材と技法の近代彫刻への影響と公共・環境彫刻の発展について。以上、各時代と画期を眺め、代表的な作品・作家を紹介します。

さて、わが国近代彫刻の流れの中で、本県彫刻の動きが重要な位置を占めていることが窺われます。明治十三年建立の兼六園内、明治祈念之標の日本武尊像は特定人物の銅像で我が国近代銅像の嚆矢です。また明治二十年に全国に先駆け創立した金沢区工業学校（現・石川県立工業高等学校）や、昭和二十一年、終戦の翌年に早くも創立した金沢美術工芸専門学校（現・金沢美術工芸大学）の存在は、当地の美術への関心の高さが窺え、地域の美術・彫刻振興にも大きな影響を与えています。本県を中心とする彫刻の多彩な展開をお楽しみ下さい。

吉田三郎《四校記念碑》1957

長谷川八十《軍鶏》1977

学芸員の眼

本展のタイトルにある「たずね（る）」を漢和辞典で引きますと、訪・尋・探から、温（温故知新）や、訊（訊問）などまでの字がみえます。本展は石川の近代彫刻の歴史について館蔵品と借用の優品でたずね・たどるものですが、出品作品のなかで現存の作家については、制作の思いも語っていただきました。また併せて出品作家の県内の屋外設置作品について写真で紹介しました。本展を契機にご観覧の皆様には本県彫刻についてご関心を持っていただき、再度たずねていただけることを願うものです。北陸新幹線金沢開業から半年が過ぎ中央との関係が太くなった今、さらなる魅力に溢れ個性的な発信が求められる時でもあるといえましょう。

前田育徳会尊経閣文庫分館

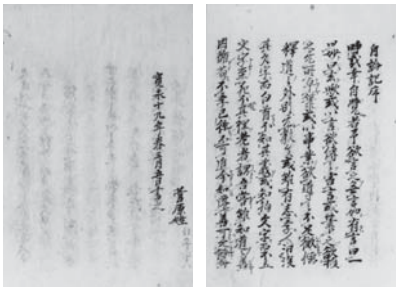
特集 生誕400年記念

四代藩主前田光高を偲ぶ

10月29日(木)～12月6日(日) 会期中無休

本年一月から二月にかけて高山右近没後四〇〇年を記念して「高山右近とその時代」を開催しましたが、同様に、徳川家康没後四〇〇年、古田織部没後四〇〇年、さらには琳派誕生四〇〇年などの展覧会が各地で開催されています。そうした桃山時代から江戸時代への大転換期に、加賀前田家四代藩主・前田光高(元和元年・一六一五～正保二年・一六四五)は、父・加賀藩三代藩主利常と、母・珠姫(二代将軍徳川秀忠の二女で利常の正室)の嫡男として誕生しました。前田家の歴史や文化をたどる際には、三代利常、五代綱紀が中心となり、その狭間に位置する光高は忘れられがちです。それは、本年が生誕四〇〇年で没後三七〇年ということから明らかなように、わずか三〇歳で早すぎる死を迎えたからです。しかしながら、父・利常や嫡男・綱紀の数々の事績に認められるように、光高の人生は短いが、それは意義のある充実したものであったことは、言うまでもありません。

今回の展示では、前田家の文武二道の精神に沿って、光高を紹介します。光高所用とされる甲冑四領が伝世しています。そのうち二領を展示し、加賀藩軍装図録とともに「武」を紹介します。また、光高自筆の「自論記」をはじめ、「論語聞書」や「歌書聞書」、自作とされる「茶杓」などにより「文」を紹介し、三〇年を太く短く生きた若き藩主の姿を想像いただければ幸いです。



「自論記」前田光高筆

第2展示室

石川県の文化財

国宝・重文・県文

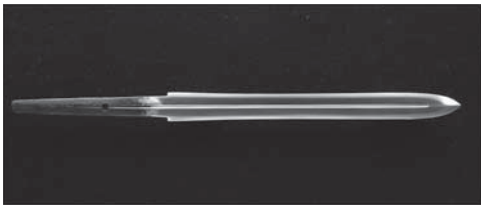
10月29日(木)～12月6日(日) 会期中無休

石川県には、歴史的あるいは芸術的に優れた貴重な文化財が数多く伝えられています。そのうち国宝は二件。当館が所蔵する「色絵雉香炉」と白山比咩神社所蔵の「剣 銘吉光」です。重要文化財をみると美術工芸品八十七件と建造物四十三件を数えます。この数は富山・福井両県をしのぎ、全国的に見ても上位に位置づけられます。

こうした文化財が石川に伝わるのは、加賀藩主前田家の文化政策が大いに貢献しており、その歴史的背景を基盤とした今日の文化風土は、芸術・文化全般に対する関心の高さを物語っています。前田家が収集し、育成した数々の名品が、時代を超えて今日に引き継がれているのです。また、その歴史的背景を基盤とした今日の文化風土は、芸術・文化全般に対する関心の高さを物語っています。

当館ではそのような文化財、中でも美術工芸品を中心に収集活動を行い、また保存と活用を目的として県内の社寺や個人の方々から多くの寄託を受けています。本展は、こうした石川県の貴重な文化遺産の一端を広く知っていただくとともに、文化財保護法に定められている寺社が所蔵する国宝・重要文化財の今年度の公開を目的として、十一月一日からの文化財保護強調週間にあわせて開催します。

石川県に所在する国宝、その二件を同時に見ることのできるまたとない展観です。ぜひこの機会をお見逃しなく。



国宝「剣 銘吉光」白山比咩神社所蔵

第5展示室

明治大正期の工芸

10月29日(木)～12月6日(日) 会期中無休

近年、明治期の工芸に注目した展覧会が、たびたび開かれるようになりました。その見どころの中心は、今日見ることの少ない「超絶技巧」の技にあるといえます。当館でも、年に一回程度、コレクション展示室において、明治の工芸を特集展示してきました。今回、明治・大正期に制作された工芸コレクションをまとめて展示し、あらためてその時代の特徴的な技や美をご覧いただきたいと思います。

「工芸」が、美術の一つのジャンルとして確立していくのは、明治に入ってからのことで、当時の国をあげての殖産興業政策にのっとって、海外の需要を強く意識した表現が、作品制作の上に反映されていくことになります。それがいわゆる「超絶技巧」ということになるわけです。本展の出品作でいえば、春名繁春作《色絵金彩海龍図遊環花瓶》にみられる、東洋風の意匠を金や華麗な色で表現した作品、また、多彩な漆の変わり塗りの技法を駆使して、あたかも写実的な絵画作品のように仕上げた柴田是真作《蒔絵蕗に小鳥図額》、さらに、鉄の板を叩いて成形する鉄打出の至難な技によって、力強い狛犬の大作を造形した山田宗美作《鉄打出狛犬》など、時代の息吹を感じていただくことができるでしょう。

春名繁春
《色絵金彩海龍図遊環花瓶》
明治11年頃

柴田是真《蒔絵蕗に小鳥図額》明治10年

第3・6展示室

優品選 絵画・彫刻・書

10月29日(木)～12月6日(日) 会期中無休

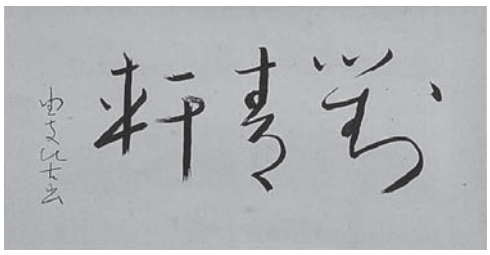
近現代の絵画・彫刻・書から、優品選をご覧いただきます。

まず、日本画からは羽根万象《眠る子》を紹介します。本作の前にたつとピカソの「バラ色時の時代」を代表する《軽業師の家族》を思い浮かべることでしょう。作者は眠る我が子を抱く素顔の道化師の姿に、親子の情愛を凝縮して描いています。

油画《ビザンツへのマドリガル》は藤森兼明の大作です。マドリガルとは中世イタリアの多声楽曲。耳慣れない言葉の並びに、すぐには作品のテーマを理解する事が難しいかもしれませんが、そこにはビザンチン美術やキリスト教信仰に対する作者のゆるがせにできない想いが貫かれているのです。

彫刻は、坂田道《縛》と、木下繁《裸婦》を紹介します。《縛》は、後手に縛られて立つ男性像で、宗教・社会性をテーマとした作品です。作者は人間をモチーフに、社会問題や物語から広くテーマをとって作品化しています。《裸婦》は簡潔なフォルムに生命感が込められた作品です。作者は表面的な美しさにとらわれず、マッスの触感が形と融合した存在感ある作品を制作しました。

最後に紹介するのは書《対青軒》です。対青軒は、旧美術館に併設された茶室の名称で俵屋宗達の号にちなんでいます。文字の主は日本画家安田靫彦。茶室のオープンに際して依頼したものです。宗達にふかく傾倒していた靫彦は、宗達作品からゆっくりと筆を進めることを学んだといいます。書も靫彦の鉄線描を彷彿とさせ、その絵を見ているかのようです。



安田靫彦《対青軒》

第7～9展示室

第68回

示現会展 巡回金沢展

11月11日（水）～15日（日） 会期中無休

一般社団法人示現会は、本年四月、東京の国立新美術館で第六十八回展を開催しました。巡回金沢展では、昨年に続いて本部基本作品六十一点（受賞作品を含む）と地元石川県作品三十七点、合計九十八点を展示します。

示現会は堅実中正、清新な具象絵画を目指して、昭和二十二年石川寅二を中心に創立以来、（故）大内田茂士、（故）楢原健三の両芸術院会員を輩出しています。

一般社団法人示現会石川県支部は、平成二十一年に設立され、多くの方々のご理解と支援のもとに、翌二十二年より巡回金沢展を開催しています。

◆入場料／一般：五〇〇円（一〇名以上の団体 四〇〇円）、65歳以上：四〇〇円、大高生：三〇〇円
※障害者手帳をお持ちの方（付添者含む）、中学生以下：無料

◆連絡先／森脇位泰　電話：〇七六一―二二―一五三七

第9展示室

第25回

石川独立DO展

11月19日（木）～23日（月・祝） 会期中無休

日本的フォーヴィズム（野獣派）の流れを汲む独立展は、昭和五年に結成され、須田国太郎や林武など、自由で個性強烈な作家を輩出していることで知られる日本有数の団体展です。石川独立は、昭和五十四年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足し、今回二十五回展を迎えます。メンバーは各自三～五点を出品し、会期中の十一月二十一日（土）には批評会を行います。

◆出品予定作家
大部雅子、金子顕司、京岡英樹、桑野幾子、田井淳、西又浩二、堀一浩、三浦賢治、
協力出品：伊藤裕貴、乙部久子、桜井節子、吉川信一

◆入場料／無料

◆連絡先／堀一浩　電話：〇七六―二四六―〇七一一

第7・8展示室

第100回

公募写真展研展

11月18日（水）～23日（月・祝） 会期中無休

東京写真研究会が主催する研展は、関東、中部、関西、北陸の四支部で構成され、公募展は四支部巡回で開催されています。会員部門と公募部門に分けられていて、今回は三七五点の作品が展示されます。

北陸支部においての入賞者は、会員部門が五名、公募部門は七名となりました。

合評会は十一月二十二日（日）午後二時より行います。

◆入場料／無料

◆連絡先／金沢市東山二丁目二―八　土田貴夫
電話：〇七六―二五一―〇七二三

第7～9展示室

第27回

志賀町を描く美術展金沢展

11月26日（木）～29日（日） 会期中無休
（本展は9時30分から17時まで）

志賀町を描く美術展は、志賀町の四季を通じて彩りを添える風景・豊かな自然の恩恵を受けて育まれてきた伝統文化や慣習などをキャンバスに描いていただくことにより、志賀町をより多くの皆様にPRする目的で開催しております。例年、招待作品から一般作品まで約一八〇点の洋画・日本画・水墨画・水彩画・版画などの作品を富来展と金沢展の二会場で展示しております。

◆入場料／無料

◆連絡先／志賀町生涯学習センター
羽咋郡志賀町高浜町カの一番地一
電話：〇七六七―三二―二九七〇

文化財現地見学報告

信仰と文化のまちを歩く

―小布施・戸隠の旅―

平成27年
10月3日(土)・4日(日)

戸隠・随神門にて

「信仰と文化のまちを歩く」をテーマに、善光寺、小布施、戸隠をめぐった今回の文化財現地見学。その行程を振り返ってみましょう。

前日までとはうってかわって、清々しい秋晴れ。善光寺では宿坊付きの方のご案内を受け、忠霊殿・金堂・山門の見学を行いました。ちょうど十二時の法要もご覧いただき、お戒壇巡りののち、宿坊での昼食となりました。午後はバスで小布施へ移動し、岩松院・高井鴻山記念館・北斎館の順に巡ります。いずれも葛飾北斎にゆかりの深い見学先。それぞれの場所で丁寧な解説をうかがいながら、ゆっくりと作品をご覧いただきました。北斎はじめ、鴻山を慕った多くの文人・画人の息吹を感じていただけたことと思います。

翌日は朝ホテルを出発し、戸隠神社へ。中社では河鍋暁斎の天井画をご覧いただき、続いて宝物館を訪れました。絵解きの経験は初めてという方もいらっしゃったのではないでしょうか。奥社入口から、もとは仁王門であったという随神門まで、徒歩二十分ほどで到着。ここで二手に分かれ、一方のグループはさらに二十分ほどで奥社・九頭龍社まで登りきり、眼下の雲海に歓声も上がっていました。天の岩戸伝説にまで遡るといわれる長い歴史を、雄大な自然の中に感じとっていただけたことと思います。またもう一方のグループが訪れた北野美術館戸隠分館では、学芸員の方から丁寧な解説をいただき、近代洋画の世界をゆったりとご堪能いただきました。

紅葉のうつくしく始まった北信濃への旅。皆々さまのおかげで、今回も大きなトラブルなどなく、無事に終えることができました。ご応募・ご参加いただき、ありがとうございました。

次回は春ごろ、日帰りツアーを予定しています。美術館だよりの案内をお待ち下さい。

企画展Top-ics「工芸にみる石川の巨匠」

平成二十八年一月四日(月)～二月十四日(日)会期中無休

石川県は、「工芸王国」とも称され、工芸の盛んな地として知られています。その源流をたどれば、藩政時代、加賀藩主の主導の下に展開した積極的な文化政策にさかのぼることができます。以来、今日に至るまで、当地には高い水準を保った工芸技術が培われ、受け継がれてきました。

本展は、北陸新幹線の開通一周年を記念して開催するもので、石川を代表する工芸作家の作品をまとめて展示し、石川の工芸の魅力を感じ取っていただこうとするものです。

出品作家は、松田権六(漆芸)・蓮田修吾郎(金属造型)・二代浅蔵五十吉(陶芸)・十代大樋長左衛門(陶芸)・三谷吾一(漆芸)・武腰敏昭(陶芸)・前 大峰(漆芸)・木村雨山(染織)・初代魚住為楽(金工)・氷見晃堂(木工)・赤地友哉(漆芸)・隅谷正峯(刀剣)・大場松魚(漆芸)・寺井直次(漆芸)・西出大三(截金)・羽田登喜男(染織)・川北良造(木工)・塩多慶四郎(漆芸)・三代徳田八十吉(陶芸)・前 史雄(漆芸)・吉田美統(陶芸)・三代魚住為楽(金工)・中川 衛(金工)・小森邦衛(漆芸)・二塚長生(染織)・中野孝一(漆芸)・灰外達夫(木工)二十七作家で、各作家の代表的な作品約一〇〇点を展示する予定です。

十代大樋長左衛門作
《壺・指頭絵「虎吼」》平成21年

十一月の行事予定

■土曜講座		午後1時30分～ 美術館講義室	聴講無料
14日(土)	石川の彫刻―近代彫刻の歩みの中で―	担当課長 北澤 寛	
21日(土)	金沢が生んだ美術批評家 坂井犀水(二)	担当課長 西田孝司	
■ギャラリートーク(ミュージアムウィーク関連)		午後3時30分～ 二階コレクション展示室	要観覧料
3日(火・祝)	石川の文化財		

アラカルト ただいま展示中　　à la carte No.7

国宝 色絵雉香炉　重要文化財 色絵雌雉香炉

江戸17世紀

野々村仁清　ののむら・にんせい

石川県立美術館を代表する作品、色絵雉香炉です。ほぼ等身大の雉の姿をした香炉で、京焼の祖といわれる野々村仁清の彫塑的な作品のうちでも特にすぐれたものです。

雄に見立てられている国宝の色絵雉香炉は、緑、紺青、赤などの絵具と金彩で、羽毛などを美しく彩った作品です。雌とされる香炉は、体の全体を濃淡の銀彩としていますが、それが酸化のためやや黒味を帯びています。雄と雌、形こそ異なるものの作行きはほとんど同様であり、ほぼ同じ時期に制作されたものと思われます。雄は尾を水平に保ち、緊張感あふれた中にも静的な姿を見せているのに対し、雌は毛繕いをするために頭を後ろに向け、尾先を斜め上方に伸ばした姿は動的であり、まさに一対として静と動の世界を考えて作陶したのではないかと思われます。

加賀前田藩では仁清の作品が好まれ、秀作が多く伝わりました。雄はその内の一つで前田家から家臣の手を経て山川家に伝わり、昭和三十四年石川県美術館の開館を記念して山川庄太郎氏から寄付された作品です。一方の雌はつがいで飾ってほしいとのご希望で、東京の水野冨士子氏より平成三年に寄贈いただきました。

現在は、雌雄そろって第一展示室で皆様をお迎えしています。

次回の展覧会

会期：12月10日(木)～2月14日(日)

前田育徳会 尊經閣文庫分館	第2展示室
新春を寿ぐ	新春優品選

第3展示室	第4展示室	第5展示室	第7～9展示室
優品選	石川の近代彫刻をたずねて	新春優品選	再興第100回 院展 会期：12月10日(木)～23日(水・祝)

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　360円(290円)
大学生　290円(230円)
高校生以下　無料
※(　　)内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション展示室無料の日(11月は2日)

今月の開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後7:00 年中無休

11月は休まず開館します。

広告

日本海の海の幸や加賀の美食なら
片山津温泉
加賀観光ホテル
〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉ウ 41
加賀観光ホテル予約センター　受付時間 9時～20時
Tel.0761-74-1101

石川県立美術館だより
第385号〈毎月発行〉
2015年11月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町２番１号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/